

## Exploring the benefits and challenges of establishing a DRI-like process for bioactives

Joanne R. Lupton • Stephanie A. Atkinson • Namsoo Chang • Cesar G. Fraga •  
Joseph Levy • Mark Messina • David P. Richardson • Ben van Ommen •  
Yuexin Yang • James C. Griffiths • John Hathcock

Eur J Nutr

DOI 10.1007/s00394-014-0666-3

**生理活性物質に関してDRI様のプロセスを確立することの利点と課題についての考察**

**要旨:** 生理活性物質は次のように定義される。:「人間が必要とする基本的栄養を与える物質以外の食品、食事の補助成分であり、健康状態の変化を引き起こす成分。」[21] ビタミン、タンパク質、必須脂肪酸、必須アミノ酸などの通常の栄養成分には、食事基準摂取 (DRI) 値が定められているが、生理活性物質にはそのような栄養に関する評価プロセスは存在しない。特定のクラスの生理活性物質に関しては、実質的、科学的な証明が存在し、それらの摂取と健康改善、疾病リスク低減との関連付けを裏付けている。加えて、生理活性物質と疾病リスクとの関係に関する研究は、政府、学術組織、食品/サプリメント製造業者が支持する領域として発展している。さらに重要なことは、生理活性物質を含有する食品を求める消費者が存在するにもかかわらず、生理活性物質に関する評価プロセスが確立していない。このため、そのメリットまたはその健康増進の効果を実現するための必要量を知るには科学の力が必要であることを人々に知らせる必要がある。**生理活性物質: ライフステージにおける量的栄養成分基準値とは?** というテーマについて本会議では、生理活性物質に関して、DRIのようなプロセスがなぜ必要なのか、また、そのようなプロセスを確立する上での課題について考察した。

**キーワード:** 生理活性物質、食事基準摂取、非必須栄養素、適度な摂取